

二〇〇三年度大会の概況

日本思想史学会二〇〇三年度大会は、十月十八日(土)・十九日(日)の両日、筑波大学を会場として開催された。

第一日目は、「思想を語るメディア―近世日本を例として―」をテーマにシンポジウムが行なわれた。

趣旨説明
報告

「媒介」の思想的意義 (東北大学) 高橋 章則
メディアを通してみた思想史料論 (東北大学) 千鶴

近世人の思想形成とメディア (東京都立大学) 福田 千鶴
コメント (二橋大学) 若尾 政希

(神戸大学) 宇野田尚哉
(島根大学) 小林 准士

ディスカッション

司 会 (愛知県立大学) 大野 出
(恵泉女学園大学) 澤井 啓一

第一日目のシンポジウム終了後、総会が行なわれ、評議員会より二〇〇二年度事業報告および決算報告がなされ、

それぞれ承認された。続いて二〇〇三年度事業計画および予算案が提出され、それぞれ評議員会案通り決定された。引き続き、筑波大学春日キャンパス食堂にて懇親会が開催された。

第二日目の研究発表、パネル・セッションの発表者と発表題目は以下のとおりである(副題省略)。

〈第一会場〉

研究発表

1、禅と戒律 (東北大学大学院) 和田有希子

2、慈遍が構想した神々 (学習院大学大学院) 林 東洋
3、世阿弥伝書における時 (筑波大学大学院) 佐々木香織

4、稻荷山鉄剣銘文の新展開について 古田 武彦

5、天保期の検閲改革をめぐる幕府儒者の思想 (岩手大学) 中村 安宏

6、平田篤胤の『仙境異聞』の形成と展開

（早稲田大学大学史資料センター） 中川 和明
7、近世武士と「学校の政」の理念
（日本学術振興会） 中田 喜万

パネル・セッション…吉田松陰研究の現在―開国前後の対外
観を中心に―

司会 （岡山大学） 高橋 文博

「投夷書」原本でみる松陰の西洋学習の姿勢

（関西大学） 陶 徳民

松陰と白旗 （東北大学大学院） 桐原 健真

吉田松陰の太平天国認識とその政治思想の転換

（北京日本学術研究センター） 郭 連友

〈第二会場〉

研究発表

1、戦国期加賀国山内地域の白山相論と泰澄記

（日本学術振興会） 永井 隆之

2、和様筆道と仕官 （神戸大学大学院） 川畑 薫

3、山崎闇斎と安鼎福についての一考察
（立命館大学大学院） 李 豪潤

4、南蛮学の伝達とその政治思想
（東海大学） 澤 大洋

5、十八世紀徳川思想史における儒仏関係をめぐる一
考察 （日本学術振興会） 三浦 雅彦

6、石田梅岩の思想 （長崎大学） 佐久間 正

7、富永仲基の仏教観 （東北大学大学院） 西村 玲
8、『論語』の二倍年暦とその史料批判
（古田史学の会） 古賀 達也

9、中根東里における万物一体の仁
（同志社大学） 和田 充弘

10、徂徠学の服飾 （お茶の水女子大学） 山上 彩

〈第三会場〉

研究発表

1、高山樗牛の「美学」思想
（筑波大学大学院） 長尾 宗典

2、喜田貞吉における「憑物」問題をめぐる再検討
（大阪大学大学院） 兵頭 晶子

3、雑誌『第三帝国』の思想的位置
（筑波大学大学院） 水谷 悟

4、平泉澄の中世観 （東北大学大学院） 昆野 伸幸

5、戦後思想とアジア （甲南女子大学） 平野 敬和

6、和辻倫理学における信頼と想像力
（京都教育大学） 宮野 美子

7、昭和初期京都学派における「歴史」の問題の萌芽
（京都大学大学院） 杉本 耕一

8、三人の柳田國男 （東北大学大学院） 塩野 雅代

9、大杉栄における「唯一者」の位置
（学習院大学大学院） 小切間佐穂